

平成23年度氷見市教育委員会の事務の点検及び評価
結 果 報 告 書

平 成 2 4 年 3 月

氷見市教育委員会

I 平成23年度点検及び評価実施方針

1 趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第27条に基づき、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たしていくため、氷見市教育委員会の事務の管理及び執行状況について点検及び評価（以下「点検・評価」という。）を実施する。

2 点検・評価の対象

平成22年度の教育委員会の重点施策のうち、第7次氷見市総合計画に位置づけられた43事業について点検・評価を行う。

3 点検・評価の方法

(1) 自己点検評価

上記の事業について、教育委員会が点検・評価を行う。

(2) 学識経験者の知見の活用

氷見市の教育に関し学識経験を有する下記の学識経験者から、教育委員会の自己点検評価結果に対する意見を聴き、本書に記載する。

学識経験者

(50音順・敬称略)

氏名	所属
徳前 啓人	青少年育成氷見市民会議会長
屋敷 夕貴	氷見市連合婦人会会長
山本 晶	富山県教育委員会学力向上アドバイザー

(3) 議会への報告及び公表

点検及び評価の結果に関する報告書を作成し、議会へ報告するとともに、氷見市ホームページにも掲載する。

II 点検及び評価の結果

別紙「平成22年度事業の点検・評価シート」のとおり

平成22年度事業の点検・評価シート

第1章 かがやきつづける人づくり

第1節 次代を担う子どもたちの健全育成

1. 家庭教育への支援

A : 十分達成できた
B : 概ね達成できた
C : やや不十分
D : 不十分

事業名等	事業の目的・内容	主な取組状況	評価	課題・今後の方向性
氷見親学び学習推進事業 (生涯学習課)	子育ては自然に受け継がれていく文化であったが、近年の核家族化や少子化によって子育てに対する不安を抱える親が増えるとともに家庭・地域での教育力が低下している。 親の子育てに対する不安を解消するとともに家庭・地域の教育力向上を目指し、親等を対象に県が作成した「親を学び伝える学習プログラム」(以下「プログラム」)を活用した学習会等を実施する。	○講演会の開催(参加者約100名) プログラムを作成した「親を学び育てる学習推進委員会」神川会長からプログラムについて学んだ。 ○親学びに関する指導者(3名)の養成 県の養成講座を受講し、資格を取得した。 ○親学び学習講座の開催 子育て広場(16回)、保育園3園、小中学校13校でプログラムを実践した。	B	平成22年度は初年度であるため、「親学び」への関心が一部にとどまっていた。 平成23年度はより多くの方々に浸透するよう取り組む。 また23年度中に県が「親学び」の祖父母・地域編を作成し、「親学び」の対象を拡大することから、24年度以降は、社会全体で「親学び」に取り組む気風を醸成する。

2. 学校・家庭・地域の連携による教育の推進

事業名等	事業の目的・内容	主な取組状況	評価	課題・今後の方向性
放課後子どもプラン推進事業 (生涯学習課)	子どもたちが、放課後、地域の方々に見守りと指導を受けながら、勉強やスポーツ、文化活動を行うことにより、地域社会の中で心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進する。	○教室開設校区 10校区 22教室 (朝日丘、窪、速川、海峰、十二町、上庄、明和、久目、宇波、宮田) ○教室内容 茶道、折紙、書道、囲碁、民謡、百人一首、自然、英会話、子ども教室 等	B	平成23年度は、新たに比美乃江校区で科学教室を開設する。 今後も、地域や保護者からの要望等を受けて、子どもの放課後の安全な居場所づくりと、地域社会で見守る心豊かな子どもの育成に努めていく。

第2節 人間性を豊かにする教育の充実

1. ゆとりの中での特色ある小学校・中学校教育の展開

A：十分達成できた
B：概ね達成できた
C：やや不十分
D：不十分

事業名等	事業の目的・内容	主な取組状況	評価	課題・今後の方向性
氷見の教育基本方針推進事業 (学校教育課)	氷見の教育基本方針の3つの柱に基づき、2分の1成人式、ボランティア活動、グリーンエコカーテンづくり等、児童生徒の発達段階を踏まえた特色ある活動に、各学校や中学校区ごとに計画的に取り組む。	○朝顔の背比べ(低学年によるグリーンエコカーテンづくり)の実施 ○2分の1成人式(小学校4年生を対象に博物館・図書館見学及び読み聞かせ体験や夢作文を書く)事業の実施 ○中学校区で小中学校が連携したあいさつ運動や清掃活動及び講演会の開催 ○校区の特色を生かした体験活動の実施	A	○「グリーンエコカーテンづくり」や「2分の1成人式活動」などの活動を通して、命の大切さや節目の10歳としての自覚を高め、夢をもって生きていこうとする心情を高めることができた。 ○小中学校が連携した活動を実施することで、中1ギャップの解消につながったと考えられる。 ○各校区での活動を通して、地域の自然や人々のよさを知り、そのよさを広めていきたいという思いが高まった。地域に学ぶことは今後も重要であり、地域の自然や産業、文化、歴史について、魅力ある人や指導者との出会いの場を広げるために新たな活動の掘り起こしも必要である。 ○学校の総合的な学習の時間数が減少する中で、今後は、さらに活動の意義について再認識し、ねらいを明確にした各学校に応じた活動を実践する必要がある。
南部中学校改築事業 (学校教育課)	南部中学校は昭和31年の建築以来53年が経過しており老朽化が著しい。また、耐震性にも劣ることから、安全で安心な教育環境を確保するために改築する。	○実施設計を作成する。 ○工事請負契約を締結する。	A	○平成23年度内に工事を完成させる。
朝日丘小学校改築事業 (学校教育課)	朝日丘小学校は南部中学校と同様に老朽化が著しく、耐震性にも劣ることから、安全で安心な教育環境を確保するために改築する。小中連携教育の取り組みに配慮した中学校との一体型施設として整備を行う。	○実施設計を作成する。 ○校舎棟の工事請負契約を締結する。	A	○平成23年度は体育館棟の工事契約を締結する。 ○平成24年度内に工事を完成させる。

事業名等	事業の目的・内容	主な取組状況	評価	課題・今後の方向性
小学校施設耐震化推進事業 (学校教育課)	耐震診断の結果Is値0.7未満となった施設について、耐震化を進める。	○補強工事完了施設 宮田小学校教室棟、比美乃江小学校体育館、湖南小学校教室棟 ○工事着手施設:窪小学校管理特別棟	A	○平成23年度は窪小学校の補強工事を完了する。 ○今後も未補強施設の対応を図る。
中学校施設耐震化推進事業 (学校教育課)	耐震診断の結果Is値0.7未満となった施設について、耐震化を進める。	○補強工事完了施設:北部中学校教室棟 ○工事着手施設:北部中学校管理特別棟	A	○平成23年度は北部中学校の補強工事を完了する。 ○今後も未補強施設の対応を図る。
ふれあい学校環境づくり事業 (学校教育課)	学校と保護者や地域住民との協働の作業による学校施設の簡易な整備に、材料支給等の支援を行い、快適な学校環境づくりを推進する。	自分たちでできる学校の環境整備を通して、学校と保護者や児童生徒が協力をして教育環境の充実に努めた。 実施学校数:小学校8校、中学校3校	B	維持メンテナンス的な環境整備が学校営繕費の軽減につながった。今後も、児童生徒と保護者が協力して学校運営に取り組むことにより、家庭・地域と一体となった学校の活性化を目指す。
コンピュータ支援講師配置事業 (学校教育課)	ICTを活用した授業を円滑に行うため、コンピュータ支援員を配置し、ICTを活用した授業の補助やICT機器の操作に関する助言を行うなど、教職員のスキルアップを図る。	○小中学校のホームページ更新 ○パソコンの設定やネットワーク設定の変更 ○ICT機器に不具合が生じた場合の初期対応	A	本事業はふるさと雇用再生特別基金事業の一環として実施されているものである。実施期間は平成23年度までとなっており、平成24年度以降は現在コンピュータ支援員が行っている業務も現場で対応する事となるため、定期的なホームページの更新や、トラブルに対する迅速な対応が困難になることが予想される。
小学校スクールバス購入事業 (学校教育課)	児童・生徒の安全で安心な通学手段を確保するため、老朽化が激しいスクールバスを更新する。	老朽化が激しい海峰小学校、仏生寺小学校、女良小学校のスクールバス計3台を更新した。	A	平成9年度購入の西部中学校スクールバスを平成24年度に更新する予定である。 西部中学校スクールバスが更新されれば、最も古いもので平成12年度購入のもの(海峰小)になるため、スクールバスの更新は一区切り付いたものとみなすことができる。

事業名等	事業の目的・内容	主な取組状況	評価	課題・今後の方向性
特別支援スタ ディ・メイト 派遣事業 (学校教育課)	発達障がいを含む障がいのある子ども一人一人の教育的ニーズを把握し、適切な支援を行うため、学級担任を補助するスタディ・メイトを派遣し、障がいのある児童生徒に対する個別の指導体制の整備を図る。	スタディ・メイト12名が小学校8校で週2～3回活動し、特別な支援を必要とする児童の学校生活や学習上の支援を行った。	B	○小学校では、個々のニーズに応じた指導が充実するとともに、落ち着いた雰囲気の授業を行うことができるなど効果は上がってきている。 ○小学校卒業後も支援を要する子どものために、中学校でのスタディ・メイトの配置を検討する必要がある。
社会に学ぶ 「14歳の挑 戦」推進事業 (学校教育課)	生徒の規範意識や職業観を育成するなど、目的意識を持って主体的に自己の進路を選択し、夢や志を持って社会を生き抜いていく力を身に付けられるよう、社会に学ぶ「14歳の挑戦」事業を推進する。	市内の全中学校2年生が、5日間学校を離れ、校区にある公共施設や企業、商店などで、職場体験活動や福祉・ボランティア活動に取り組んだ。	A	○生徒はこの活動を通して、働くことの厳しさや喜びを体験し、学校では得られない充実感と達成感を得ることができた。また、生徒の人生観や勤労観の形成及び社会性の育成に多いに役立った。 ○多様化する生徒の希望に添うような事業所の新規開拓と協力要請が今後の課題である。
小・中学校図 書館図書購入 事業 (学校教育課)	「本が大好きな子ども」の育成を目指し、朝読書をはじめとする教育活動全体の中で児童生徒の読書の習慣化を図るため、児童生徒が読みたくなる本など学校図書館図書の蔵書を充実する。	○図書購入費用を学校の規模、学級数に応じて配分し図書館図書の充実を図っている。 ○平成22年度は地域活性化交付金を活用し、特に学校図書館図書標準に対する蔵書冊数充足率の低い学校の蔵書冊数の充実を図った。	B	平成22年度は国の交付金を活用し、蔵書率の低い学校の学校図書の充実を図った。現状では、文部科学省が定める学校図書館図書標準冊数に満たない学校があり、より一層の蔵書冊数の充実が望まれる。今後も蔵書率を満たすよう計画的に図書の整備を図っていく。
小学校読書活 動推進事業 (学校教育課)	児童生徒の自主的・自発的な読書活動を推進するため、本の読み聞かせや図書室の環境整備などを行う図書司書を小学校に配置し、学校図書館の充実・利用促進を図る。	学校図書館司書2名が市内14小学校を巡回し、児童への本の読み聞かせや読み方の指導、図書室の整備などの読書活動を推進した。	B	今後、学校図書館司書を増員し、学校図書館の充実・利用促進に向けた司書の配置に努めていく必要がある。
学校施設環境 整備事業 (学校教育課)	学校における校庭除草や簡易な施設補修等、日常的な維持管理業務を行う作業員等を配置し、良好な教育環境の整備を図る。 (緊急雇用創出事業)	作業員を3名雇用し、学校敷地内及びその周辺の除草・清掃作業や学校施設の小修繕などを行った。	A	県の緊急雇用創出事業実施期間に合わせて、平成23年度で終了の予定であるが、学校からは「継続してほしい」との要望がある。

事業名等	事業の目的・内容	主な取組状況	評価	課題・今後の方向性
宇波小学校体育館改修事業 (学校教育課)	子どもたちが安全で安心な環境の下で教育が受けることができるよう、老朽化した体育館の整備を図る。	○床、外壁のリフォーム ○屋内外兼用トイレの整備	A	平成22年度で完了する。
統合整備推進事業 (学校教育課)	小学校における複式学級の解消と中学校における専門教育と多様な集団活動を確保することにより、教育の機会均等と教育効果の向上を図るため、小中学校の再編を推進する。	○女良小学校と宇波小学校の統合決定(H23.4) ○仏生寺小学校と湖南小学校の統合決定(H23.4) ○灘浦地区学校統合検討委員会において、灘浦中学校と北部中学校の統合について平成26年度を目途に継続審議とすることを再確認	A	○灘浦地区学校統合検討委員会を開催し、灘浦中学校と北部中学校の統合について継続的に協議する。 ○久目、速川、明和小学校の統合について、各校区における意見集約に努める。
読書から広がる「未来の夢」推進事業 (教育研究所)	国民読書年を機会に、学校の読書活動や家庭での親子読書を推進する。	○講演・読み聞かせ 講師 志茂田景樹氏 ○音読発表 朝日丘小学校6年生 ○影絵劇発表 いずみの会 ○図書室利用について発表 南部中学校 司書教諭	B	学校における読書活動は市内小中学校において定着している。今後は司書等の配置を含め、よりよい読書活動になるように各学校における取り組みの充実が望まれる。
とやま型学力向上プログラム実践研究事業 (教育研究所)	氷見市内の児童生徒の一層の学力向上を図るため、教職員の指導力や資質の向上を図る研修会を実施する。	○学力向上推進研修会 ○教育セミナー 講師 文部科学省教育課程室長 梶山 正司 先生 ○とやま型学力向上プログラム研修会 講師 富山大学 教授 松本 謙一 先生	B	拠点校を中心に学力向上の成果がみられた。また、一連の研修会により市内教職員の資質向上も図られた。今後、拠点校の成果を市全体に広げる工夫が必要である。
スクールガードリーダー設置事業 (教育研究所)	学校の安全体制についてのアドバイス、関係機関との連絡調査等を通して地域ぐるみの見守り活動を推進する。	○学校安全パトロール隊の防犯指導 ○学校行事等で教職員や児童に対する防犯指導 ○児童の下校時の見守りを実施	A	本事業により各校の学校安全パトロール隊が整備され、成果が十分みられた。そのため、来年度からは実施する必要はない。

小学校外国語授業力向上推進事業 (教育研究所)	平成23年度から実施される小学校での外国語活動における教育環境を整備するとともに、教員の指導力向上を図る研修会を実施する。	○外国語活動協力員を市内小学校に配置 ○外国語活動研修会 講師 西教事 主任研究主事 作井美佐子 先生、 研究主事 西守千香子 先生	B	外国語活動協力員の派遣により活発な外国語活動が行われている。また、高学年担任の負担も軽減されている。今後は、担任が外国語活動指導の能力を高め、担任が中心となった、よりよい活動が行われるように研修会等の一層の充実を図るとよい。
学校評議員設置事業 (教育研究所)	各学校の教育活動を見直し、地域に信頼される教育活動を展開するため、学校評議員による学校評価を推進する。	○市内全小中学校において学校評議員の委嘱 ○学校評議員会の開催 ○市内全小中学校の自己評価結果及び学校関係者評価の実施と結果収集	A	学校評議員による学校関係者評価は市内小中学校において定着し、地域社会とのよい架け橋となっている。今後も継続し、一層、家庭や地域から信頼される学校になることを推進する。
国際教育推進事業 (教育研究所)	中学校英語科においてネイティブ・スピーカーの英語にふれさせることでコミュニケーション能力の育成を図る。また、小学校における国際理解教育の推進を図る。	○ALT4名、CIR1名を市内全小中学校に配置 ○夏季休業中に開催される英語暗誦大会の事前指導及び当日の審査	A	中学校における英語科指導においてALTの果たす役割は大きい。国際社会において積極的にコミュニケーションする態度を育てるために、今後もこの事業は欠かすことができない。

2. 個性化・多様化を図る高等学校教育の充実

事業名等	事業の目的・内容	主な取組状況	評価	課題・今後の方向性
新高校支援事業 (学校教育課)	平成22年度からスタートした新生氷見高校が、活気あふれる高校となるよう、先進的取組を行う学校視察や学習指導力向上及び魅力ある教育活動等の取組に対して支援を行う。	○県外高校において学校再編や専門教育などの観点から先進的な取組みを視察する。(学校視察事業) ○教員の学習指導力や進路指導力の向上を目指して県外の大学や予備校の講習等を受講する。(学力向上事業) ○新高校において新たに導入するHIMI学の円滑な実施や、有磯高校における地域連携活動の充実を図る。(魅力ある教育活動推進事業)	A	学科や生徒の多様化に応じたきめ細かな学習活動の推進が一層重要になっている。このため、 ○文理探究コースを中心とした普通科における進学実績の向上 ○HIMI学や専門学科の実習等における体験的・実践的な学習の推進 ○地域に根ざした魅力ある県立高校としての広報強化 などに対する教員研修、外部講師招聘、パンフレット作成等に係る事業の継続実施が望まれる。

第3節 ライフステージに応じた学習機会の充実

1.学習支援の推進

A：十分達成できた
B：概ね達成できた
C：やや不十分
D：不十分

事業名等	事業の目的・内容	主な取組状況	評価	課題・今後の方向性
「安部」人づくり基金運用事業 (学校教育課)	次代を担う青少年の育成等を図るため、故安部清氏の寄附金を基に、優れた功績があり、将来を嘱望される個人・団体を顕彰する。	第20回安部賞表彰式において、氷見市立十二町小学校が教育文化部門で、稲積京之介さんが体育スポーツ部門でそれぞれ表彰された。	B	安部賞は、教育文化部門、体育スポーツ部門、産業技能部門、社会福祉部門の4つの表彰部門があるが、教育文化部門、体育スポーツ部門に偏る傾向にあるため、4つの部門が均等に受賞できるよう顕彰基準の見直しを検討する。
生涯学習リーダー養成事業 (生涯学習課)	造形芸術センターで行う各教室を運営している氷見市美術協会を支援する。	日本画、デッサン、陶芸、パッチワークの講座があり、各講座が月2回程度開催されている。受講者は各講座10人程度である。	B	○受講者を更に増加させるようPRする。
地域コミュニティ活性化事業 (中央公民館)	地域コミュニティを活性化させることにより、地域住民の人間関係を一層深め、郷土に誇りを持ち、地域に貢献する人材を育成するなど、郷土愛に根ざした人づくりを積極的に推進する事業を支援する。	<ul style="list-style-type: none"> ○三世代交流地域探訪早朝ウォーキングの実施 ○校区パークゴルフ大会の実施 ○歴史講座の実施 ○おやじ料理教室の実施 ○虫送り(松明明祭)の実施 ○異世代交流ソバ打ち体験教室の実施 ○伝承料理を楽しむ会の実施 ○どでカボチャ展示会の実施 ○ふれあいキャンプ活動の実施 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○事業費の地元負担額と市助成額の割合が地区により大きく異なっており、地元負担額の割合を事前に明示する必要がある。 ○現行審査基準では新規事業のみを認める事になっており、同じ内容の事業の名前を変えて申請する地区が増えてきており、審査基準を見直す必要がある。

第4節 多様な芸術・文化の推進

A：十分達成できた
B：概ね達成できた
C：やや不十分
D：不十分

1. 市民の芸術・文化活動の振興

事業名等	事業の目的・内容	主な取組状況	評価	課題・今後の方向性
富山県民謡民舞大会開催事業 (生涯学習課)	富山県民謡民舞連盟が主催する大会を、市町村(13カ所)で持ち回る。	平成22年11月28日に、市民会館において18団体、約400人が出演し、県内に古くから受け継がれている民謡民舞を披露した。	B	氷見市からは「氷見綱起し木遣り保存会」が出演した。今後、同会のジュニアの育成について支援していく必要がある。

2. 文化遺産や文化財の継承

事業名等	事業の目的・内容	主な取組状況	評価	課題・今後の方向性
イタセンパラ保護環境整備事業 (生涯学習課)	イタセンパラ保護池を新規に造成することで、個体数・遺伝的多様性に配慮した生息域外保全を行う。	実施設計及び敷地造成工事が完了した。	A	○23年度に池水路工 ○24年度に体験学習施設・園路を整備 ○25年度に便益施設を整備
天然記念物イタセンパラ再生事業 (生涯学習課)	イタセンパラの保護、普及啓発を目的として、野外生息調査・環境調査を実施する。	○イタセンパラの野外繁殖を観察 ○市内小学校での飼育学習 ○イタセンパラの出現を決定する環境要因の解明	B	出現要因の決定は22年度では明らかにならなかったため、23年度も引き続き実施する。
十二町瀧オニバス再生事業 (生涯学習課)	国指定天然記念物オニバス発生地を再生する。	氷見市オニバス研究会に委託する。指定地外では発生するものの、指定地内では、現状は難しい。	C	都市計画課等の関係各課との調整の上で、指定地外で発生している場所の追加指定も検討する。

事業名等	事業の目的・内容	主な取組状況	評価	課題・今後の方向性
阿尾城跡環境整備事業 (生涯学習課)	阿尾城跡の景観を維持するために、樹木の剪定を行う。	立木の剪定、及び一部伐採を行い県指定史跡の阿尾城跡の保護、維持管理を行った。	A	22年度で終了する。23年度からは草刈りによる景観の保全に努めることとする。
文化財環境整備事業 (生涯学習課)	文化財の保護活用を推進するための環境整備事業を実施する。	指定文化財の消毒・燻蒸や老谷の大つばきの保存業務を実施した。	B	年2回程度の消毒ができる予算確保に努めていく。
埋蔵文化財発掘調査事業 (生涯学習課)	市内の道路建設やほ場整備等に伴う埋蔵文化財の試掘調査を実施する。	○七分一地区ほ場整備に伴う試掘調査(七分一B・七分一堂口・七分一古大門遺跡) ○柳田ひかり第一保育園統合園建設に伴う松田江北遺跡試掘調査 ○朝日山公園整備事業に伴う朝日大山遺跡試掘調査 ○大境洞窟住居跡周辺部測量等調査	B	用地買収未完了のため、当初予定していた国道415号大野谷屋バイパスの試掘調査が実施できなかった以外は、問題ない。 今後も開発事業の計画に従い事業を実施していくが、開発者側への周知・徹底が課題である。
特別展開催事業 (博物館)	氷見地域の歴史について、特定のテーマや最新の研究成果に基づいた特別展を開催し、地域のあゆみの一端を広く一般に紹介する。	○特別展「山城探訪」-よみがえる中世- H22年10月15日～11月7日、入館者 1,614人 資料解説会、現地探訪会(森寺城跡)開催 ○特別展「氷見の手仕事」-職人の手業と用の美- H23年3月4日～3月27日、入館者 1,221人 資料解説会開催	A	今後も氷見地域をテーマとする特色ある特別展、企画展を年2回ペースで開催し、文化遺産・文化財への関心を高める。
市史資料保存事業 (図書館)	『氷見市史』編纂時に収集した歴史資料の保存・活用と共に氷見市に関する地域資料の収集・保存を行う。	○『氷見市史』全10巻の販売と在庫管理 ○9万件を越える資料データの活用 ○行政資料の収集と整理保存活動 ○図書・雑誌・パンフレット等の地域資料の収集と整理 ○古書・古文書などの保存活動	A	地域資料の収集・整理・保存は、図書館にとって、最も重要な業務の一つであり、『氷見市史』編纂時に収集した資料を引き継ぐと共に、今後も積極的に、氷見市に関する資料を集め、後世へ残す取り組みを続ける必要がある。

3. 文化遺産を生かした地域づくり

事業名等	事業の目的・内容	主な取組状況	評価	課題・今後の方向性
「ふるさと学び」応援事業 (生涯学習課)	自らが住む地域の歴史・文化・自然の自主的な学習活動「ふるさと学び」を支援するため、地域の公民館で講座や調査活動を実施する。 平成22年度から3カ年の予定で、窪公民館と速川公民館で実施している。	平成22年度の実施状況 ○窪公民館 ・6月6日「王者を生んだ湖～布勢水海と古墳の時代～」講師 市立博物館 大野館長補佐 ・9月11日「窪地区 土地の生い立ち～気候変動と土地の移り変わり～」講師 氷見市文化財審議会 会長 松島 洋先生 等 合計4回 開催 ○速川公民館 ・8月20日「卑弥呼の時代の氷見～小久米A遺跡が語ること」講師 市立博物館 大野館長補佐 ・11月20日「安部精二さんを語る」講師 元教育委員長 藤田謹平氏 等 合計3回 開催	B	1年目である平成22年度は、講義形式を中心に、現地学習も組み込んだ講座も実施して、地域の歴史・文化・自然を学習することの楽しさを知ってもらうことに重点を置いた。2年目以降は、調査や体験も組み込んで、次第に主体的な学びに取り組むよう進め、学習者自らがその成果をまとめて発表するなど「地域の学芸員」づくりを目指すものである。 3カ年終了後の平成25年度以降は、新たな公民館で取り組みを行うことにより、「ふるさと学び」の輪を次第に全市的に広めていきたい。

第5節 すこやかな心と体を作るスポーツ・レクリエーションの推進

A：十分達成できた
B：概ね達成できた
C：やや不十分
D：不十分

1. スポーツ・レクリエーションの環境づくり

事業名等	事業の目的・内容	主な取組状況	評価	課題・今後の方向性
春の全国中学生ハンドボール選手権大会開催事業費補助金 (生涯学習課)	(財)地域活性化センターのスポーツ拠点づくり推進事業の一環として、平成17年度～平成26年度まで10回開催を予定している。 全国47都道府県全てからチームの参加を目指して実施している。	第6回大会を男子47チーム、女子46チームの計93チームの参加で開催予定していたが、東日本大震災の影響で中止とした。 実施直前の中止決定で残念な結果となった。 中止決定日：3月18日(金)	B	次回大会(第7回)に向けて万全の準備を進めていきたい。 第8回大会開催までに、日本ハンドボール協会等と慎重に協議を重ね、第11回大会以降の実施について検討していく。

全国スポーツ・レクリエーション祭開催事業 (生涯学習課)	第23回全国スポーツ・レクリエーション祭フォークダンス大会を開催した。	42都道府県から47チームの参加で実施した。 大会実施と同時に全国研修会を開催できたことで、過去に例のない参加者数(1,200名)を得て盛大に実施することができた。	A	次期開催地の栃木県小山市へ無事引き継いだ。
総合型地域スポーツクラブ育成事業 (生涯学習課)	市内の2つのスポーツクラブの活動に対して助言及び助成を行う。	「スポーツプラザひみ」は学校体育施設等開放施設を活動拠点として、誰もが、気軽に、楽しんでスポーツに取り組める機会を提供している。 「ふれんず」はふれあいスポーツセンターを活動拠点として、専門的なスポーツ指導を継続的に行い、技能・体力の維持向上に取り組んでいる。	B	共有できる種目の活動を合同で実施するなど、両クラブの交流を促進するよう助言する。

2. 競技スポーツ水準の向上

事業名等	事業の目的・内容	主な取組状況	評価	課題・今後の方向性
Vリーグ男子氷見大会開催事業費補助金 (生涯学習課)	トップアスリートの行き交うまち氷見を創造するため、豊田合成トレフェルサのサブホームタウンとしてVプレミアリーグを誘致し、その開催権料の一部を助成する。	1月22日(土)、23日(日)の両日、ふれあいスポーツセンターにて、パナソニックパンサーズ、三好ヴァイセアドラー、FC東京を迎え、豊田合成トレフェルサのホームゲームとして開催された。 2日間で約4,000人の観客が日本のトップレベルのプレーを間近で観戦した。	A	平成24年度に全国高等学校総合体育大会バレーボール競技が、氷見市、高岡市で開催されることが決定している。 豊田合成トレフェルサの支援を得て、地元氷見高校が大会の出場権獲得に向けて強化を図ることで市民の気運を高めていきたい。
優秀水泳コーチ招聘事業 (生涯学習課)	水泳競技のオリンピックメダリストを招聘して、指導者研修会及び水泳教室を開催し、指導者の資質の向上を図るとともに市内小中学生の憧れと向上心を醸成する。	市水泳協会に事業委託し、アテネオリンピックで水泳女子800m自由形金メダリストの柴田亜衣さんを招聘し、指導者研修会及び水泳教室を開催した。 指導者研修会には190名、水泳教室には100名が参加した。特に水泳教室では、模範泳法や参加者代表と競泳するなど、市民とオリンピックチャンピオンが身近で接することができた。	A	競技水準の引き上げを目指すためトップレベルの講師を招聘し、多くの市民に関心を持ってもらうことにより体育施設の利活用の向上も図っていきたい。

Ⅲ 点検及び評価に対する学識経験者の意見

(1) 次代を担う子どもたちの健全育成

(放課後子どもプラン推進事業について)

子どもの放課後の安全な居場所づくりを考えたとき、週1～2回の放課後子ども教室の開催では充分とは言えず、全ての子どもが気軽にいつでも集まれるような居場所づくりが必要であると思われる。

(2) 人間性を豊かにする教育の充実

(氷見の教育基本方針推進事業について)

「氷見の教育基本方針」の三つの柱に基づき、2分の1成人式や中学校区における小中連携活動等を推進したことは、児童生徒の社会性やよりよく生きようとする自覚を高めるとともに、自分が生活する地域への誇りや感謝の気持ちをはぐくんだものと思われる。今後も、地域人材の一層の活用を図り、郷土が誇る先賢や自然、産業、文化への理解を深め、ふるさと氷見への愛着が深まるよう、児童生徒の発達段階や地域の特性を踏まえた活動を工夫するとともに、その情報交換にも努めてもらいたい。

(南部中学校改築事業、朝日丘小学校改築事業、小中学校施設耐震化推進事業について)

児童生徒が安心・安全な学校生活を送るとともに、災害発生時には、多くの地域住民の避難場所となる学校施設の改善を図ることは喫緊の課題であり、着実に事業を推進することは大切なことである。今後とも未補強施設の解消、避難時のマニュアル整備、必要な物資の備蓄等に向けて最大限の努力をしてほしい。

(3) ライフステージに応じた学習機会の充実

(地域コミュニティ活性化事業について)

生涯学習の拠点となる公民館は、講座内容・受講者が固定化している傾向にあり、各公民館の活動状況にも温度差があるように思われる。地域コミュニティ活性化事業も単発的な事業ではなく、各地域及び各年代のニーズに応じた継続できる事業を開催し、異世代交流の充実を図るなど地域の活性化に繋げてもらいたい。

(4) 多様な芸術・文化の振興

(イタセンパラ保護環境整備事業について)

平成 25 年度に竣工予定のイタセンパラ保護池の維持管理については、いかに地域住民の理解と協力を得ることができるかが課題になるのではないだろうか。地域住民が地域にある文化財について誇りと愛着を持ち、次代に引き継いでいくことができるよう、イタセンパラを保護する市民ボランティア制度を創設するなど地域人材の育成を図ってほしい。

(5) すこやかな心と体をつくるスポーツ・レクリエーションの推進

(総合型地域スポーツクラブ育成事業について)

市内の2つのスポーツクラブ（スポーツクラブひみ、ふれんず）が中心となり、各種スポーツ大会や教室が開催され、子どもから高齢者まで多くの市民がスポーツ活動を楽しんでいることは本当に良いことだと思う。将来的にこの2つが1つの大きなスポーツクラブとなり、友達や家族ぐるみで気軽にスポーツ活動の場に参加できるような環境づくりを充実してもらいたい。